

広島大学大学院 文学研究科

文藝学校「本の学校」講演会

HIROSHIMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
Lecture meeting



米子会場「本の学校」多目的ホール

平成十五年十月四日(土)

午後一時三〇分—午後四時三〇分

鳥取県米子市新開一三二〇 電話〇八五九一三二五〇〇

◆講師と演題

位藤邦生「日本の詩歌」

中村裕英「シェイクスピア劇における女性たち」

松本陽正「サン・テグジベリ「星の王子さま」の世界」

松江会場 鳥根県民会館大会議場

平成十五年十月五日(日)

午後二時三〇分—午後四時三〇分

鳥根県松江市殿町二五八 電話〇八五二二二五五〇六

◆講師と演題

位藤邦生「稲村築著「訓注明月記」の面白さ」

中村裕英「シェイクスピアの悲劇的世界」

松本陽正「カミュ「異邦人」を読み解く」

※講師はいずれも広島大学大学院文学研究科教授

入場無料

今井書店グループの米子市・境港市・安来市・松江市内の各店において、入場整理券を差し上げます。

主催／広島大学大学院文学研究科「文藝学校」・「本の学校」
協賛／株式会社今井書店グループ
後援／鳥取県教育委員会・鳥根県教育委員会
松江市教育委員会・米子市教育委員会
「本の学校」生涯読書をすすめる会

お問い合わせ先

「本の学校」郁文塾

電話 〇八五九一三一五〇〇

ファックス 〇八五九一三一九〇〇

Eメール b-school@imajibooks.co.jp

株式会社 松江今井書店

電話 〇八五二二四一三三三

ファックス 〇八五二二七一八二九
Eメール mhonten@imajibooks.co.jp

MAIBOOKS

今井書店グループ

今井書店 松江今井書店 郁文堂書店 共文堂書店

TOP イベント 書籍 ブックレビュー CD/DVD コミック ゲーム レンタルビデオ ランキング 注文

今井書店グループ イベント情報

[文藝学校講演会 広島大学大学院文学研究科] [cha+シノワな時間]

●文藝学校 講演会 広島大学大学院文学研究科

広島大学大学院文学研究科の教授による、「文藝学校」の出前講義です。
 サラダ記念日や異邦人(カミュ)、星の王子様、シェイクスピアはオセロー、ハムレットなどがテキストになります。
 松江会場は訓注 明月記が加わります。
 お気軽にご参加ください。



【米子会場】

日時: 2003年10月4日(土) 13:30~16:30

場所: 本の学校 2階 多目的ホール 米子市新開2-3-10 TEL: 0859-31-5001

講師と演題:

- ◆位藤邦生 「日本の詩歌」
- ◆中村裕英 「シェイクスピア劇における女性たち」
- ◆松本陽正 「サン=テグジュベリ『星の王子さま』の世界」

お問合せ: 本の学校 郁文塾 TEL: 0859-31-5001 E-Mail: b-schule@imaibooks.co.jp
 本の学校ホームページ www.hon-no-gakkou.com

【松江会場】

日時: 2003年10月5日(日) 13:30~16:30

場所: 島根県民会館大会議場 松江市殿町158 TEL:0852-22-5506

講師と演題:

- ◆位藤邦生 「稲村榮一著『訓注 明月記』の面白さ」
- ◆中村裕英 「シェイクスピアの悲劇的世界」
- ◆松本陽正 「カミュ『異邦人』を読み解く」

お問合せ: 松江今井書店 TEL: 0852-24-2233 E-mail: mhonten@imaibooks.co.jp

●入場無料 (両会場とも)

今井書店グループ 米子市・境港市・安来市・松江市内の各店において、入場整理券を差し上げます。

【講師の紹介】



- ◆位藤邦生 ...
 文学博士。広島大学大学院文学研究科教授。
 中世文学、特に和歌・連歌・日記文学の研究



- ◆中村裕英 ...
 文学修士。広島大学大学院文学研究科教授。
 英国ルネッサンス演劇、とりわけシェイクスピアなどに描かれる女性登場人物の考察など。



- ◆松本陽正 ...
 文学博士。広島大学大学院文学研究科教授。
 カミュを中心に、作品の形成過程の探求などさまざまな角度からアプローチを試みる。

広島大学大学院文学研究科は、広島文理科大学（昭和4年創設）を母体とする長い伝統に立って、活発な教育・研究活動を展開しています。その中で〔言語表象文化学分野〕は、言語と文化を中心課題として研究し、21世紀にふさわしい文化多元主義の観点から、その成果を世界に向けて発信しています。今回〔言語表象文化学分野〕の「文藝学校」スタッフが、最新の研究成果をわかりやすくお伝えし、地域のかたがたとの交流を深めるために、講演会を企画しました。米子市と松江市を第一回目の地に選んで実施いたします。多くのかたがたのお力添えに支えられたこの試みが成功しますよう、皆様のご協力をお願いする次第です。

「文藝学校」世話人 位藤邦生

〔講演内容概要〕

〔日本の詩歌〕 位藤邦生

日本の詩歌の長い伝統は、時の隔たりを超えて作品が共鳴し合う、独特の世界を作り出しました。中世に多く用いられた「本歌取り」もこうした事象の一つです。近・現代の北見志保子、俵万智らの短歌作品と、古典作品との響き合いを確かめながら、詩歌の魅力を見直します。

〔稲村榮一著『訓注明月記』の面白さ〕 位藤邦生

稲村榮一先生が心血をそそいで完成された『訓注明月記』は、立派であるばかりでなく、大変面白いご本でもあります。この稲村本『明月記』を例に引きながら、『明月記』の面白さを語ります。有名な「俊成終焉記」の記事を、時に冷泉家蔵定家自筆本と対照しながら読んでゆきます。

「シェイクスピアにおける女性たち」 中村裕英

シェイクスピア劇には貞女、悪女、娼婦などさまざまな魅力的な女性が登場します。こうした女性たちの言葉や行動は当時の女性たちが置かれていた社会的状況と密接に関連しています。とりわけ結婚に関する当時の慣習にも触れながら、彼女たちの言葉の持っている魅力や洞察力を見ていきましょう。

「シェイクスピアの悲劇的世界」 中村裕英

シェイクスピアは『ハムレット』『オセロー』『リア王』『マクベス』という偉大な悲劇を書いています。それらの悲劇はそれぞれ独自の世界が探求されていますが、共通する問題もあります。自己の内面を深く掘り下げたこうした悲劇における世界観や人間観を主人公たちの言葉を手がかりに考えてみましょう。

〔サン＝テグジュペリ『星の王子さま』の世界〕 松本陽正

『星の王子さま』(1943)には、かつて子供だったことを忘れ、大切なことを忘却した大人たちが、戯画化され描かれています。王子さまが狐から教わる、この「大切なこと」とは何なのかを、テキストを分析しながらみていきます。また、悲壮感すら漂っている作品の結末部の謎についても考えてみましょう。

〔カミュ『異邦人』を読み解く〕 松本陽正

「今日ママが死んだ」で始まる有名な冒頭部、どうしてあんなふうにそっけなく肉親の死

を語れるのでしょうか？主人公ムルソーってやはり「変人」なのでしょうか？作者カミュは
一体何を描き出そうとしたのでしょうか？そんな『異邦人』の謎を読み解いてみたいと思っ
ています。